

組み立て開始(そのVIII)

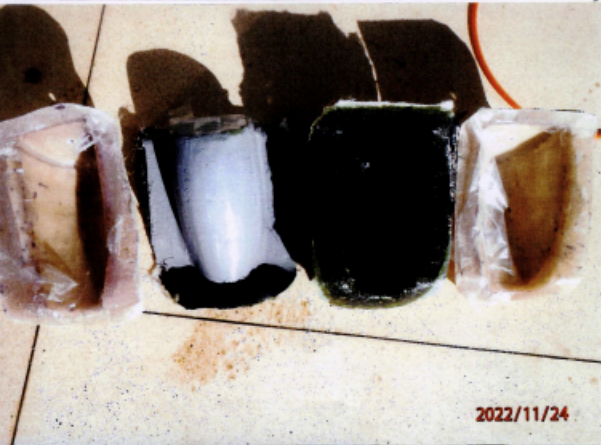
11/20(月)に8畳間のコタツと食卓のコタツをセットするのにはがけをしたら、100円ショップで買ったノートが行方不明になり、ヤフオクでもらった「応援ありがとう」のノートを見つけて書き始めた。11/21(月)は、午前中雨がパラついて、午後から雨が止って助かった。Yにビニールカッパを着てもらい、小生はビニール傘をさして、TIKI-30から、ドリフトストラッカーを取り外し、D-43の船台後部に置いていた。ハリヤーダスト

ツーパーウインチベース(左右)と、温風圧左塗装機をO小学校に搬入する。

11/19(土)にT&SとZ人で、TIKI-30のジブポートウインチのベースの型を積層しておいたので簡単に、コックピットから取り外した。O小学校の昇降口の中央のドア付近で、雄型からメス型を脱形し、#180から#240で研ぎをする。単純な作業ほど、精神的に良い勉強になる。月曜日に頑張って、雄型ワックス。



ケルコート吹き付けまでやっておけば、火曜日に朝一番で気分良く積層作業が出来る。仕事のペースを理解出来ない、先手必勝のリズムを獲得出来ない。仕事は、メリハリをはけて、楽しくなる様に工夫しないと、3Kの仕事は大変です。R-804のりホキニ種樹脂を約1.2kg使用して、TKI-3Dのウインチベースの積層は終了した。前日、ビルフィンストライカー、ウインチベース



(左右2個)ハリヤドウインチベース(左右2個)を吹き付け塗装しておいたので、仕事がつとつと拍子にはか取った。ビルフィンストライカーだけ、外に出して、完全硬化する様に配慮する。



午後からは、マルチで、ビルフィンストライカーの取りす、ユックロピット左右のフマーのセンター合せを行う。2人でないと出来ない作業は、2人でやる他に、方法はないと思える。

2022年1/1のA新聞の茨城版に「エシモの神様」記念館開業の記事があったので切り取っておいた。土浦出身の寺内タケシの記念館が筑西市のテーマパーク「サ・ヒロサワ・シティ」内にオープンした記事でした。後援会長の光田氏がバンドを作ったら、『芸事にはプロもアマもないんだ。バカもん』と灰皿を投げつけられたり、『バカも最後までやり切れればバカでなくなる。俺を見てみろ』。30年ほど前に寺内さんから言われた言葉が忘れられない。「僕は死ぬまで『寺内バカ田でいたい。とあります。小生より6歳年長の寺内氏の言葉を借りて、『艇作りは、プロもアマもないんだ……』と流用出来ます。〈弥葦II〉のゴックピットに乗っただけで、2007年のメルヘン阪でトッパ競いをしたIのM氏は、『凄い、凄い……』と云ってくれた。コンパス用の左右の取付ベースも、ヨーミングの外側に取り付けた。ランニングバックステイ用のウインチベースもFRP製で自然に納まっている。作ってみればわかるが、木型作り⇒メス型作り⇒製品と、まともにやると大変です。その後TKI-30を作る事にして、設計図を15万円で購入して、詳細に見てみると、ジブシート用のウインチは、ゴックピットベンチの真中に設置されていた。楽しみと考えるか、苦しみと考えるか、プロが作ったものも、アマが作ったものも無関係でしょう。現在岐阜市に住むIn氏がゴックピットにはチークを張って下さい……』と〈弥葦II〉の建造中に言われた。右舷側からチークを張り始め、根太はチーク材の15%を使用したか、一番船尾側は根太の長さが短いので、タツペンギン同志の間隔が短くなり、チークが割れてしまった。さあどうするか……?……!



昔、船社では、船誌の他に、HELM誌を出した。HELM誌の次に、クルージングワールド誌を出したので、どちらも購入して熱心に読ませてもらった。外国で購入した65tの船が、船軸の上部のベアリングケースのFRP固着が剥離して、トラブルを起した。応急修理で抗菌まな板を一枚、ケースの型を切り取って、甲板とボルトナットで締めつけた修理を行い、航海を続行した話がレポートされていた。何処の船もまな板を搭載しているの、良い中に気がついたと感心した。何でもそうだが、コロナスの卵です。その記事で感心して覚えていたので、ホームセンターの家庭用品売場に行ってみると、家庭用の抗菌まな板は、15%の厚さで、チークと同じでしたので、購入して使用してみた。以来、抗菌まな板を使用した、チークのすのこを便利に楽しんでいる。チークデッキを張った船は多いが、抗菌まな板の根太を使用した船を見た事はない。今回TIKI-30のゴックピットのデッキに業務用の抗菌まな板の20%厚のものを、キャビン入口の差し板の取り付け部と、スライドハッチの手掛けと、スケグと甲板との接合部に抗菌まな板を埋め込んだ。どんな良質な木材でも、有機質なので、やかては腐食する。抗菌まな板は腐食しないので、安心して使用出来る。船社のクルージングワールドの記事を熱心に読んでいたのが、今回のTIKI-30の抗菌まな板の使用する動機になった。感謝、感謝で、『ゴックピットはチークを張って……』とImEtが宿題をくれたので、TIKI-30のシヤラ製のゴックピットが出来上った。宿題をくれたImEtに感謝ですが、60分の〈弥勒II〉のゴックピットのチーク張りは、結局15%のチークの根太を、全部抗菌まな板に取り変えて結局、まるまる一週間の時間を要した。



「犬も歩けば棒に当る」とか「転んでもタタ起きない」とか昔の人は様々な教訓を残してくれた。76歳まで長生きをして、頑張っていると、様々な事が見えてくる。2011年の3/11の震災で、大洗マリーナでも被災して、我々の税金で復旧したが、有益な御金の使い方が出来ない、浮き橋はすべて入れ替えて、パイルも新しく打ち込んで、50ft、45ft、40ft、35ft、30ft等に区分した。説明会で、パイルの長さが不足していると指摘され、津波後のパイルは、上部を溶接工事で、わざわざ継ぎ足した。津波で電気系統の被害を受けた、上下架用クレーンは、総て新品に入れ替えられた、3億円と高額な出費です。電気系統だけ総入れ替えをして、残りの残金を、クレーンの隣の斜路に自走式のガントリークレーンを設置して欲しかった。那珂川沿いのマリーナで、50ftの自走式クレーンを7台(?)万円で購入して、固定式と自走式と2台活用している。マリーナを新設する時に、ユーザー代表で、斜路(テーブルリフター)は百害あって一利なしと意見を云ったが聞いてもらえず現在に至っている。ワイヤー(鉄製)をモーターで上げ下げする設備が、毎年毎年メンテナンス費用をかけて、結局現在使用されていない現状を何と弁明するのか、話にならない。大洗マリーナの固定式クレーンの隣の斜路は、今だに使用されていない。残念、無念……。浮き橋も撤去され、2022年の春に、2021年の予算ですべて産廃になった。町の使用されていないO小学校の校庭の隅に置かせてもら

えば、年寄りや、女子や子供が、自由に乗り降り出来る浮き橋が出来るので、潤沼に設置すれば、ヨット教室にも使えると町の方に話したが、ラムサール条約を盾にして話にならなかった。



結局、隣の釣り公園側に設置されていた、ウッドデッキの廃材を払い下げてもらい、最初はカーデシテラス用のバンベキューベンチに利用した。銚子マリナが震災後、再オープンしたので、御祝いに5台、2.4mのベンチを寄贈した。2021年の春からL-30の大修理を行った。脚立で足場を作るより、2.7mのベンチや2.4mのベンチを自作すれば、修理後本来の目的に使用出来ると思った。小名浜のマリナオープンのお祝い用に5台作っておけば、結局何時でも寄贈出来ると思った。結局、長短6台を自作し、TK-30のソックピット乗せの作業に、自作した作業階段も併用し、車のジャッキを再利用して、何とか作業を終える事が出来た。自走式の大型のクレーンは1億円として、残りの2億円を工事費に計上する柔軟な発想が出来れば、今頃、大洗マリナは、固定式と自走式と2台のクレーンを持ち、クレーン、上下架料金を安くすれば、大型のカタマランが、東京横浜・湘南から整備にやって来て、町の活性化に役立つと思考する。広い土地があり、安い人権費の人間があり、船台の不要の自走式のクレーンがあれば、鬼に金棒と思えます。バンベキューベンチの自作の発想の基は、ココロラのベンチでした。昔、ビンのコーラの自販機があった。米国の文化のココロラは、霞ヶ浦のヨットハーバーにも、ビンのコーラの自販機があった。デインギのセイリング後のコーラタイムは、何物にも替えがたかった。鉄のパイプのラワン材に赤のペンキで塗装されたベンチは、時が流れ姿を消した。H4に大洗マリナがオープンし、近所に、アウトレットのモールが出来た。嫁さんとジョギングに出向いたら、2階にチーク製のベンチが置いてあった。そのベンチをモデルにして、現在のベンチを発想出来た。

R
々

11/23

伊
藤